

就労支援特別VRカリキュラムの開発 ～実践事例と成果～



- 竹内 恭平（株式会社ジョリーグッド emou担当ビジネスプロデューサー）
- 木谷 直人・外川 大希・蟹江 絢子・中嶋 愛一郎（株式会社ジョリーグッド）
- ワークサポート杉並 就労移行支援事業 職員一同（ワークサポート杉並）

会社概要

会社概要

会社名 株式会社ジョリーグッド
事業 VR・AI 技術を活用したソリューションサービスの提供
創業 2014年5月
本社 東京都中央区日本橋堀留町1-8-11
資本金 12.4億円（資本準備金含む）
CEO 上路 健介
社員 60名

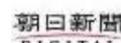
URL <https://jollygood.co.jp/>



障がい者支援施設・病院・学校・家庭向け



病院・教育機関・メーカー向け 精神科・心療内科・患者向け



自己紹介

竹内 恭平
emou担当ビジネスプロデューサー

楽天株式会社でキャリアをスタート。
CtoCサービスを展開するスタートアップ企業を経て、
2018年にジョリーグッドにジョイン。
emou立ち上げ期より事業開発を担当。



VRとは

そもそもVRって何？

VRは「**場面体験**」ができるテクノロジー

VRは、ゴーグルを装着することで、360度を見渡しながら様々な「場面を体験する」ことができるテクノロジーです。登場人物の目線を通して「場面体験」をすることで、**他人の体験を自分の経験として取り込むことができます。**



emouプログラム | 就労体験 書店編

既存の学習法に比べてVRは効果的

講義形式のトレーニングと比較した場合

習得までの時間は **1/4** ↓

トレーニング後の自信は **1.4倍** ↑

トレーニング中の集中度は **4倍** ↑

※PwC US/UKの調査レポートより抜粋
https://www.pwc.com/us/learning?fbclid=IwAR213UAdOa1dHxnV0Au-sXmurUKCx3z7XSNJuUEE_aejYRtJn9cAWuOyB0

VRによる学習・トレーニングのメリット

- ・ 360度の現実空間を教材にできる
- ・ 自分目線で他人の経験ができる
- ・ 記憶に残りやすい
- ・ 体験による高い学習定着率

emou概要



2019/4提供開始

就労・リワーク支援コミュニケーショントレーニングVR

emou

社会でのコミュニケーション力をVRでトレーニング！

⑤ VRコンテンツ

④ 運用マニュアル

③ 視線解析機能

④ データ連携機能



140本以上



iPad

遠隔操作



VRゴーグル



導入/メディア掲載/受賞実績

障がい福祉施設を中心に自治体や医療機関、学校など全国200を超える施設に導入！
「emou」の導入社は注目も高まり多くのメディアに掲載されています

全国200施設超の導入実績



導入社のメディア掲載多数



経済産業省 ビジネスコンテスト優秀賞



なぜVRを活用するのか？

VRなら支援者のスキルに依存せずに説明なしで「こんなときどうする？」という場面を簡単に共有。就労経験のない人でも「働く」をイメージしながらトレーニングを実施できます。

従来のトレーニング

白板などで「こんなときどうする？」という場面を説明。支援者のスキルに依存したり理解に齟齬が生じてしまう



VRによるトレーニング

VRで「こんなときどうする？」という場面をリアルに体験。就労経験のない人でも「働く」をイメージできる



emouの特徴

利用者は安全・安心な360°VR空間でコミュニケーションの練習が可能
 支援者はカリキュラム及び進行マニュアルで簡単にコミュニケーショントレーニングを実施できます

利用者

VRで「こんなときどうする?」という場면을リアルに体験。就労経験のない人でも「働く」をイメージできる

装着するだけで説明不要



VRでリアルに場面体験

支援者

進行マニュアルもあるので誰がやっても同じ品質で支援が可能。カリキュラムを進めるための準備時間が少なく済みます。

マニュアルに沿って支援

利用者向け 支援者向け

iPadでVR映像を操作



emouについて | 豊富なVRコンテンツ

学齡期、思春期、就労期まで成長に合わせた豊富なVRコンテンツ

利用者のステージに合わせて、ニーズの高いテーマをVRコンテンツ化。ただ体験するだけでなく、ストーリー分岐、自由会話、職業体験など、より実践的なスキルが身につくプログラムをご用意。実際に体験した利用者の満足度は94%、高い支持を得ています。

学齡期

思春期

就労期

職業訓練

テーマ

認知、共感力、援助要請など

テーマ

校則、お金の貸し借り、印象など

テーマ

面接、自由会話、アサーションなど

テーマ

書店店員、ホテル清掃員体験



今後も、消費生活トラブル、異性との関わり、外出体験など
導入者様を中心に幅広くご意見を頂き、ニーズの高いプログラムを毎年追加しています。

emouについて | 特徴

経験の浅いスタッフでも授業が実施できる進行マニュアル

emouでご用意しているプログラムには進行マニュアルが付属しています。マニュアルでは、授業の目的、プログラムの解説、生徒のレベルに合わせた目標設定、具体的な授業の進行方法等がまとめてあり、経験の浅いスタッフでもすぐに授業が実施できます。

授業の概要

この授業で実際に行うことや、狙いについて解説。

VRのポイント

VR体験中に注目させる箇所や、登場人物の台詞に込められた意味等を解説。

The manual pages provide detailed instructions for a 1:1 self-introduction session. The left page outlines the session overview and key points for the VR experience, including specific dialogue and actions for participants. The right page details the training goals and the step-by-step progression of the session, including preparation and execution phases.

目標設定

参加する生徒の障害の程度、IQなどによって、どこを目指すかを解説。

授業の進行

授業全体の流れ、VRを見せるタイミングや、その後のディスカッションテーマなど、具体的な進行方向を解説。

※一部マニュアルがないコンテンツもございます。

VRを活用したコミュニケーショントレーニングの流れ

VRによる「場面」を教材にSSTを実施。VRで前提となる状況の共有とイメージができるので、その後のディスカッションで、より具体的な学びを得ることができます。

進行により場面の再体験

事前説明

5分

セッションの目的や体験するコンテンツの概要などを説明



場面体験 (VR)

3分

セッションに応じたVRコンテンツを再生し場면을体験



質問→ディスカッション

20~40分

体験した場면을教材に、状況や他者の感情や考えの理解、トラブルの対応方法などについてトレーニング



振り返り・まとめ



実施時間 30分 ~ 60分

emouについて | 効果の可視化

効果を可視化する仕組み、視線解析・受講履歴

VRコンテンツ体験中の利用者の視線は自動解析され、施設のマイページ内で確認できます。視線を解析することで、利用者の特性を知りきっかけとなり、その変化にも注目することができます。参加者もemouに登録することでマイページを作成でき、過去の受講履歴を閲覧できます。

VR体験中の視線を自動解析

話している人の顔を見れるか、動作の意味を理解しているかなど、**利用者の特性理解に活用できます。**



利用者ごとにマイページ

過去に体験したプログラム、体験時のスコア、先生からのコメントなどを確認できます。



今回の取り組み

就労・リワーク向けemou活用カリキュラムについて(全12回)

基本的な職場でのコミュニケーションスキルや面接対策を現実に近い状態で「予習」可能
 →入社後のギャップやコミュニケーション困難での離職を防ぐ効果が期待できる

ベーシック



① 距離感

② 聞く態度

③ 謝罪&対応

④ 優先順位

業務中、つまづきやすいポイントを中心に基礎的な対人スキルを練習する

アサーション



⑤ 相談の仕方

⑥ ストレス対処

⑦ 断り方

⑧ 気遣い方

職場で周りの意見や考えを大事にしながら相手に自分の意見や考えの伝え方を練習する

ロールプレイ



⑨ 面接の態度

⑩ 面接練習

11最終面接

12入社挨拶

採用面接や自己紹介など本番の場に慣れながら準備をして自分の考えを発信の練習をする

入所

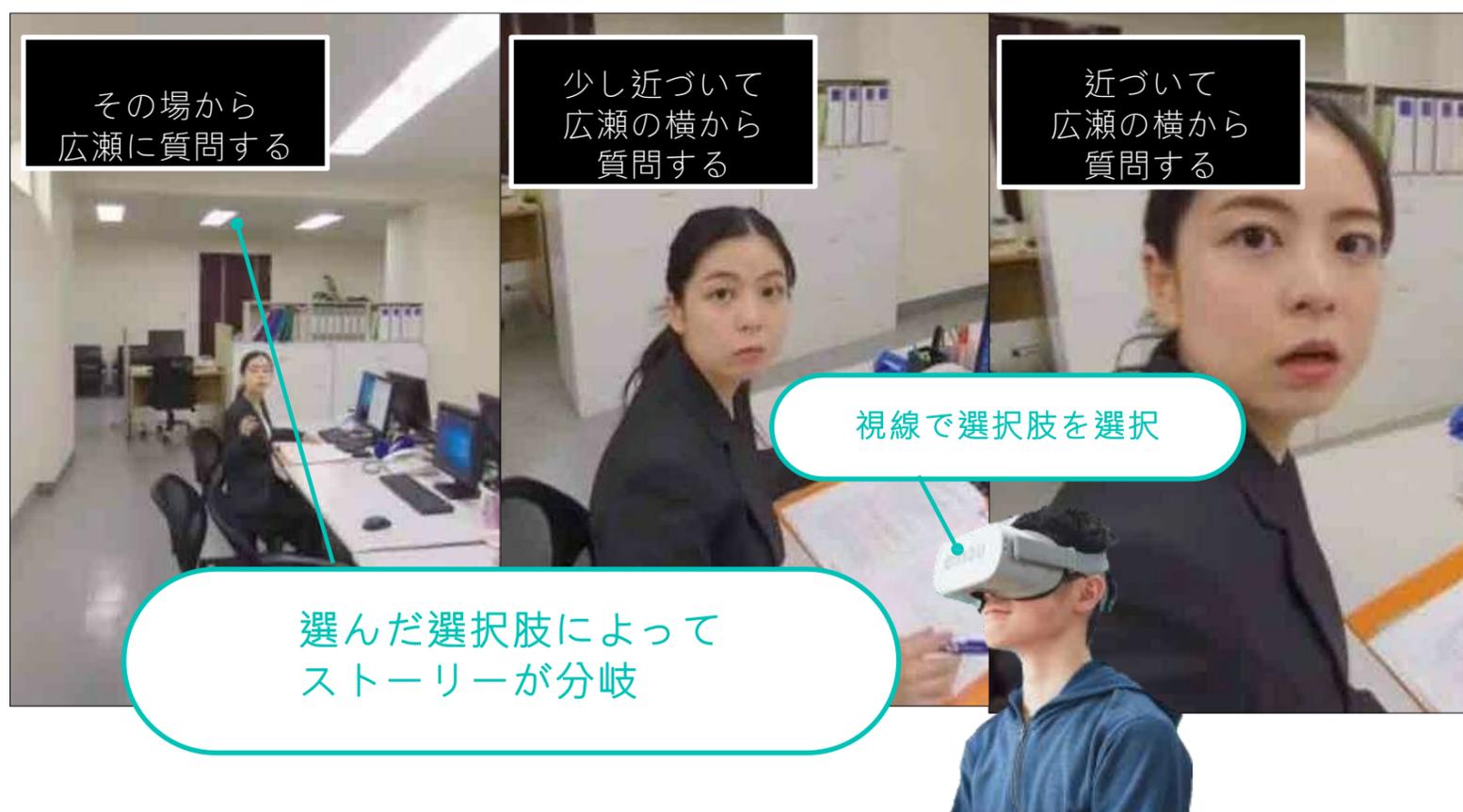
準備期

実習期

就活

コンテンツ例：① 距離感

【コンテンツ：アンケートまとめ（ベーシック）】
 わからないことがあるときに、質問する際の距離感について考える。
 物理的に近づきすぎたり遠すぎたりした際の相手の感情や考えを推察する



内容

- ・ 部長に仕事を頼まれた
- ・ わからないことがあるので質問したい
- ・ どの距離から話しかけるかを選択する

ポイント

- ・ 質問時の「距離感」について考える
- ・ 質問するときのポイントを学ぶ

就労・リワーク向けemou活用カリキュラム：専用セッションシート及びワークシートのイメージ

支援者向けマニュアル=セッションシート

利用者(患者向け)マニュアル:ワークシート

セッションシート 約50分

部長から仕事を頼まれたが、わからないことがある
誰に相談する？

A1-02 相談の仕方

項目	進行	解説
アイスブレイク	1) テーマについて説明	ストーリーのまとめ 部長から頼まれた仕事について、わからないところがあります。部長と清水先輩は忙しいので、市川先輩に相談しよう。3人のうち誰に相談するかを選択肢があり、部長と清水先輩に相談すると断られ、市川先輩に相談すると丁寧に教えてもらえます。
自己評価	2) ワークシートに自己評価を記入	【自己評価(セッションの目的)】 わからないことを相手に相談できる 忙しい人に話しかける 相手に配慮して話しかけられる
状況理解① 相談相手を選ぶ	3) 選択肢AまでVR視聴	「仕事で困ったときにどのように相談するかについて考えてみましょう。まずは、Googleを使って検索してみましょう。選択肢が出てきたら、相談したい相手を選んでください。」
	4) 質問を出す	【質問のポイント】 相手にその相談に関する知識があるかどうか 相談に乗ってくれる時間があるかどうか(忙しいかどうか) 丁寧に教えてくれるかどうか ここでは参加者の質問やその理由を確認することに留めて、次に進む。
	5) 判断したポイントを確認する	「その人を選んでポイントはどこですか?」
状況理解② 相手のだしさを把握する	6) 選択肢画面をVR視聴	【それぞれの様子】 ●部長 席間を離れながら、集中してパソコンを打っている。 個人で作業や仕事をしながら、資料を読んでいる。 ●清水先輩 資料を読んでいる。 ●市川先輩 資料を読んでいるが、部長はど真ん中しているわけではなく、携帯を触ったりしている。
	7) 3人それぞれのだしさを記入	「部長、清水先輩、市川先輩のそれぞれの様子をワークシートのメモに記入してみてください。」
	8) ワークシートに記入した意見を発表	
状況理解③ (市川先輩)	9) 選択肢C(市川先輩)をVR視聴	【市川先輩の対応】 丁寧に教えてくれる
	10) 質問を出す	「市川さん、相談したらどうになりましたか?」
状況理解④ (部長)	11) 選択肢A(部長)をVR視聴	【部長の対応】 他の人に聞いて、と断られる
	12) 質問を出す	「部長に相談したらどうになりましたか?」
状況理解⑤ (清水先輩)	13) 選択肢B(清水先輩)をVR視聴	【清水先輩の対応】 また後にして、と断られる
	14) 質問を出す	「清水先輩に相談したらどうになりましたか?」

セッションシート 約50分

部長から仕事を頼まれたが、わからないことがある
誰に相談する？ つづき

A1-02 相談の仕方

項目	進行	解説
状況理解 まとめ	15) 状況についての解説	【ポイント】 忙しい人に声をかけると、断られる可能性が高くなる 「3人を見た結果、市川先輩は今忙しいから優先して教えてくれましたね。」
	16) 忙しい人のパターンを解説	「席間を離れている人や、集中してパソコンを打っている人、電話をしている人に話しかけてしまうと断られる可能性が高くなってしまいます。」
解説	17) 相談する時のポイントを解説	【ポイント】 ・声を掛けるときは声(アサーションスキル利用) ①相手の状況を見て、相手に配慮していることを伝える ②自分の相談したいことを率直に伝える (自分の相談を相手に受け付けてくれない場合は、他の選択肢を提示する) 「具体的に相談の仕方を考えてみましょう。声を掛けるときはポイントがあります。まずは「今大丈夫ですか?」とクッション言葉を伝えましょう。これが相手に配慮になります。どうしても忙しい人に相談しなければいけない場合は「お忙しいところすみません」と伝えましょう。配慮した上で、自分の相談したいことを率直に伝えましょう。」
	14) ワークシートに相談する時のセリフを記入	【声かけの例】 ・今大丈夫でしょうか。資料のまとめ方について教えて下さい ・先輩、今よろしいですか?資料のまとめ方について聞きたいのですが? 記入してください。
ロールプレイ	15) 選択肢C(市川先輩)をVR視聴しながら、実際にセリフを練習	「市川先輩を見ながら、実際に作った文章を声に出して練習しましょう。」 ●VR視聴を選択肢C(00:20)まで止め、市川先輩を見ながら練習する
	16) 今日学んだことと自己評価を記入	「今日の内容で勉強になったところはどこでしたか?ワークシートに記入しましょう。空かせてテーマについての自己評価を改めて行いましょう。星マークでの記入をお願いします。」
まとめ	17) ワークシートに記入したことを発表	「相談する基準は、丁寧に教えてくれる人が、忙しいかどうかがあります。だしさを判断する基準を、今日はVRで確認しました。また、相談する基準や、相談の仕方についても学びました。相談をした後に挨拶を言うこと、断られたとしても自分のせいだと考えず、断られることも大切です。」

ワークシート

部長から仕事を頼まれたが、わからないことがある
誰に相談する？

日付: 月 日

名前:

テーマについての自己評価

できない ← → できる

わからないことは周りに相談できる 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

忙しい人にながれつつあることができる 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

相手に配慮して話しかけられる 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

自己評価のコツ: セッション前後でどう変化したか分かるようにしましょう

【例】わからないことは周りに相談した方がいいと知っている 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

メモ① | 部長、清水先輩、市川先輩のそれぞれの様子を記入しましょう

部長:

清水先輩:

市川先輩:

メモ② | 相手に相談する時のセリフを記入しましょう

今日の授業で勉強になったことを記入しましょう

検証協力：ワークサポート杉並について

公益財団法人杉並区障害者雇用支援事業団が運営する就労移行支援事業所



検証内容

Aさん（20代女性：精神疾患：発達障害）、Bさん（20代女性：知的障害）の計2名に週1回のVR授業を実施→授業実施前後の自己評価の変化を測定



取り組みの反響

都議選直後・オリンピック準備期間・大雨災害・4回目の緊急事態宣言という厳しい状況の中で世間の大きな注目を集め（2社）の取材を獲得

障害ある人への職業訓練にVR 杉並の支援施設で利用者が体験 コロナ禍で活用「社会へ出る時役立つと思う」
2021年7月11日 10時46分



企業に仕事の手引きを教えるVRの場面（ジョリーグランド）

発達障害や精神障害がある人が就職や復職を目指す訓練にVR（バーチャル・リアリティ）を活用しようという試みが8日、杉並区の就労移行支援事業所「ワークサポート杉並」（区障害者雇用支援事業団、高井戸東4）であり、利用者が訓練を体験した。（小松田優一）

これらの障害によって就労に必要な対人コミュニケーションが十分にできない人もいて、訓練を通じて能力向上を図る。ただ、コロナ禍で外部から専門の講師を招きにくくなっており、訓練の質を維持する思いがある。

障害者支援のVR活用などを提供する「Tペンチャー企業「ジョリーグランド」（本社中央区）が、精神科専門医の監修を受けた訓練プログラムを提供し、日ごころ事業所を利用する3人が約一時間の訓練に臨んだ。



取材獲得媒体数	2社	
媒体名	東京新聞	Medpeer ※医療関係者向け
掲載日	7月11日（日）	8月4日（日）

評価の方法

記述式のワークシートの活用を通して、
VR授業実施前後の利用者の自己評価の変化を10段階で測定

部長から仕事を頼まれたが、わからないことがある

日時

月

日

誰に相談する？

テーマについての自己評価

	できない ←	→ できる
✓ わからないことは周りに相談できる	1	2 3 4 5 6 7 8 9 10
✓ 忙しい人に気がつくことができる	1	2 3 4 5 6 7 8 9 10
✓ 相手に配慮して話しかけられる	1	2 3 4 5 6 7 8 9 10

自己評価のコツ：セッション前後でどう変化したか分かるようにしましょう

【例】 わからないことは周りに相談した方がいいと知っている

★セッション前は0、セッション後★

1

2

3

4

5

★6

7

8

9

10

検証結果：自己評価

Aさん、Bさんそれぞれの自己評価においてVR体験前後で概ね前向きな変化あり
 ※現在も取り組み継続中

セッションのテーマ	① 距離感	② 聞く態度	③ 謝罪と対応	④ 優先順位	⑤ 相談の仕方	⑥ ストレス対処	⑦ 断り方	⑧ 気遣い方
イメージ								
Aさん 自己評価の変化が一番大きい項目	密接・個体・社会距離についてそれぞれ説明できる	変化なし (自己評価高)	相手の目を見て話することができる	優先すべき業務を判断できる	変化なし(自己評価高)	うるさくしている人に対して、トラブルを回避しながら相談できる	自分が疲れている時に断ることができる	相手→自分→提案の順番で断ることができる
Bさん 自己評価の変化が一番大きい項目		相手の話を復唱して確認できる	今後どうしていくかを相手に伝えることができる	緊急性と重要性に寄って優先順位をつけられる	相手に配慮して話しかけられる			

検証結果：コメント

取り組みに対する前向きな気持ちや
自身の理解・行動の変化を示唆するコメント多数

受講者コメント（一部抜粋）**< Aさん & Bさん：取り組み全体の所感 >**

- ・リアルで現場にいるような感覚があり
社会へ出る時役に立つと思う

< Aさん：優先順位 >

- ・自分の緊急性と重要性の理解が
あやふやだったことに気づいた

< Bさん：ストレス対処 >

- ・今までは黙ってやり過ごしていたが、
別の対処を学び実践することができた

支援者コメント（一部抜粋）**< 支援員：取り組み全体の所感 >**

- ・受講者テーマ毎の授業の様子から
各々の経験値や特性の理解が深まった
- ・発信能力や人との付き合い方など、
社会性の向上に寄与できそう
- ・VRによる授業の補完によって今
まで以上受講者との
コミュニケーションに集中できる

考察

就労支援特別VRカリキュラムの活用は

- 受講者の自己評価の向上に繋がる
- 支援者側の受講者に対する特性理解促進に繋がる



より効果を高めるためには中長期の取り組み継続と経過観察※要

※就職率への影響、定着率への影響等

今後のビジョン

就労・リワークに向けた更なる支援の充実へ向けサービス拡大
 今回開発したカリキュラムは9/1より正式サービスとして提供開始→改善も引き続き実施

PRESS RELEASE 2021.09.30

業界初のリワーク支援VRを開発！「emou」を精神障害による休職者向けにサービス拡大へ

ジョリーグッドは、開発・提供するソーシャルスキルトレーニングVR「emou」（エモウ）にて、精神科専門医と共に精神障害で離職・休職している方の復職を支援する「リワーク特化型VRカリキュラム」を開発しました。

リワーク支援ツールとしてVRが活用されるのは“業界初”となります。

本VRカリキュラムは、主に発達障害支援施設向けにジョリーグッドが提供する「emou」が、就労移行支援事業所にて精神障害を持つ方の復職や職場定着に高い効果を発揮することが調査で分かったことを受け、開発に至っています。

無料デモ体験
 申込受付中

emou

